

【生薬名】 細辛 *ASIASARI RADIX*

【起源植物】 ウバサイン *Asiasarum sieboldi*

ケリンサイン *A. heterotropoides var. mandshuricum*



【科名】 ウラボシ科 *Aristolochiaceae*

【別名】

【薬用部分】 根、根茎

【主成分】 精油(メチルゲノール、サロール)、リグナン類、辛味成分

【薬性】 気味は心温、帰経は心肺肝腎に属す、有小毒

【効能】 ●発散風寒・祛風止痛・温肺化飲

●咳、喘息、浮腫、風邪の初期に1日1～3gを煎服

●漢方では細辛、五味子はペアでよく使われている

●小青龍湯にもこのペアで配合されている

●味が辛烈なので多く用いない方がよい

●からだを温める力の強い良い生薬です

●解熱鎮痛作用の強い生薬です

●鎮静作用もある

【出典】 ●細辛 辛温、少陰頭痛、竅を利し、関を通し、風湿に皆用う。(薬性歌)

●咳逆、上気、頭痛、脳効、百節拘攣、風湿、痺痛、死肌を治す  
(神農本草経上品)

●胆気を添え、風湿痒を去り、齒痛腰痛を除く(薬性本草)

【備考】 ●花はとても地味、写真では2本の茎の付け根に咲いています

【処方例】 ●麻黄附子細辛湯、小青龍湯、立効散